

## V49b シーイングモニタ (DIMM) の校正

浦口 史寛、高遠 徳尚、宮下 暁彦 (国立天文台)、本原顕太郎、土居 守、征矢野 隆夫 (東大理)

我々はシーイングの多地点同時測定のために、複数台のシーイングモニタ (Differential Image Motion Monitor: DIMM) を製作してきた。本発表では、DIMM 同士の校正方法について、東京大学 TAO グループが開発した DIMM との校正例を中心に述べる。

DIMM 校正の問題点は、レファレンスとなるようなシーイングサイズのわかった天体が無いことである。したがって、絶対値が正しくなるように校正するのは難しい。しかし、相互に校正済みの同型の DIMM を使うことで、多地点間でのシーイングを高い信頼度で相対的に比較することは可能である。DIMM の測定からシーイング値に変換する際に考慮すべき主な点は、(1) 露出時間が長いことによるスムージング、(2) 光学系の収差、(3) カメラ系の電気ノイズ、(4) 奇・偶数フィールドの処理 (インターレース方式で画像取り込みを行った場合)、(5) ピクセルスケールの誤差、(6) 大気ゆらぎの outer scale である。

本ポスターでは、これらの校正点について具体的な校正例をあげて発表する予定である。